

# IV. 環境の取組み

## 1. JAMSTECのマテリアルバランス

### JAMSTEC全体のマテリアルバランスと環境パフォーマンス

本図はJAMSTECの事業活動に伴う、エネルギーや資源などの投入量（INPUT）とCO<sub>2</sub>や廃棄物などの排出量（OUTPUT）を表しています。なお、端数処理の関係上、合計と一致しない場合があります。

### 総投入量(INPUT)



#### 陸上投入量

- 電力：44,873,497kWh
- 油：2.7 kℓ
- 水：62.2 m<sup>3</sup>
- 紙：38.78t
- ガス：58.03 km<sup>3</sup>
- 化学物質 (PRTR 法対象物質)：591.26 kg

#### 海上投入量

- 電力：207,462kWh
- 油：207,462 kℓ
- 水：63.14 m<sup>3</sup>
- 紙：2.61t
- 化学物質 (PRTR 法対象物質)：9,927 kg

#### 陸上の活動



#### 陸上排出量

- CO<sub>2</sub>：23,257tCO<sub>2</sub>
- 廃棄物：198t ※2
- 排水：62.2 m<sup>3</sup>
- 水域排出物 (BOD, COD)：94.7 kg
- 大気排出物 (NO<sub>x</sub>, SO<sub>x</sub>)：0t

#### 海上の活動



#### 海上排出量

- CO<sub>2</sub>：77,596tCO<sub>2</sub>
- 廃棄物：506t
- 排水：63.14 m<sup>3</sup>
- 大気排出物 (NO<sub>x</sub>, SO<sub>x</sub>)：1,838t

#### CO<sub>2</sub>



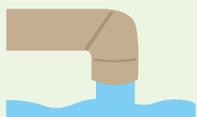
100,853tCO<sub>2</sub> ※3

#### 廃棄物



704t

#### 排水



125.34m<sup>3</sup> ※1

#### 水域排出物



94.7kg ※4

#### 大気排出物



1,838t ※5

### 総排出量(OUTPUT)

- ※1 水のINPUTについては2014年度より船舶における海水からの造水についても集計を追加しています。また、排水量（OUTPUT）についてはINPUTと同量を記載しています。
- ※2 この他にも放射性廃棄物1.1kℓを排出しています。
- ※3 CO<sub>2</sub>排出量についてはエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量のみを記載しています。なお、排出量の算定については、環境報告ガイドライン2012年版（環境省）による「エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の算定式」によります。
- ※4 水域排出物については生物化学的酸素要求量（BOD）及び化学的酸素要求量（COD）の値から算出しています。
- ※5 大気排出物については窒素酸化物（NO<sub>x</sub>）及び硫黄酸化物（SO<sub>x</sub>）の値から算出しています。

## 2. 主要な環境パフォーマンスデータの推移

### 電気使用量

- JAMSTECの電力消費の大部分は、地球シミュレータ及び空調設備が占めています。2014年7月から地球シミュレータの後継機への更新が開始され、2015年3月に後継機の一部稼働が開始、2015年6月からシステム全体の運用が開始されました。この、地球シミュレータの更新により、全体として約25%という大幅な削減をすることができました。
- 船舶における電力消費は、ドック時の陸上電源の利用によるものです。2015年度の使用量は2014年度と比べてほぼ倍増しておりますが、これは2014年度までの集計方法に誤りがあったためです。



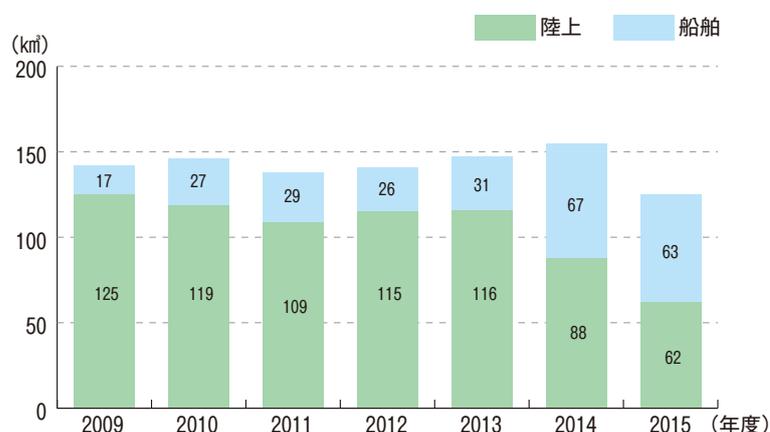
### 燃料油使用量

- JAMSTECの油類の使用量のほとんどが船舶の運航に係わるA重油です。このため、船舶の航海の形態（航走距離、速力、調査海域、稼働率など）により使用量は変動します。
- 2015年度の使用量は2014年度と比べて全体として約7%減少しており、ほぼ横ばい状態ですが、海洋調査船「なつしま」及び海洋調査船「かいよう」の引退に伴う使用量の減少が寄与しているものと思われます。



### 水使用量

- 2015年度の水の使用量は2014年度比で、陸上で約30%減少、船舶で約6%減少、全体で約19%減少しています。
- 陸上での主な減少要因は、地球シミュレータ用空冷設備更新に伴い、稼働機の単体運転が可能となり、冷却水量の節約ができたことです。船舶ではほぼ横ばい状態ですが、燃料油と同様に海洋調査船「なつしま」及び海洋調査船「かいよう」の引退に伴う使用量の減少が寄与しているものと思われます。



※2014年度より船舶における海水からの造水についても含めて集計しています。

## ガス使用量

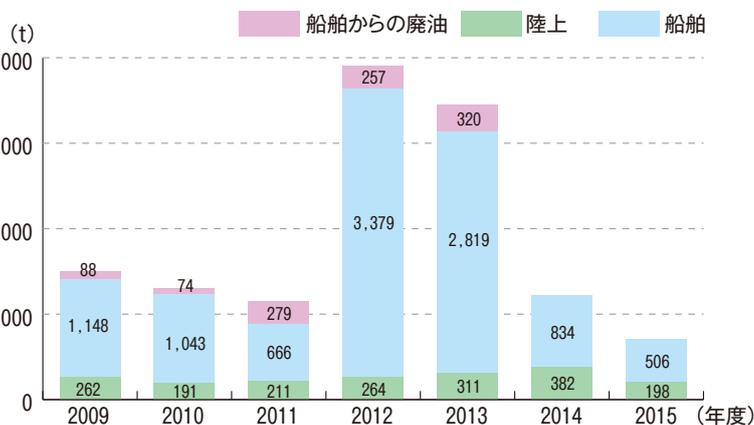
- JAMSTECでは都市ガスとLPGを使用しています。主な都市ガスの用途は地球シミュレータの空調です。LPGについては、潜水訓練プールの温水ヒーターや暖房、食堂での調理に使用しています。船上ではガスは使用していません。
- 2015年度のガスの使用量は、2014年度に比べて約11%減少しており、ほぼ横ばい状態ですが、地球シミュレータの空調設備をガスから電気式に更新したこと、潜水訓練プールや食堂の利用率が低下したことの影響であると思われます。



※船舶においては少量使用していますが、端数処理により0.0を表記しています。

## 廃棄物排出量

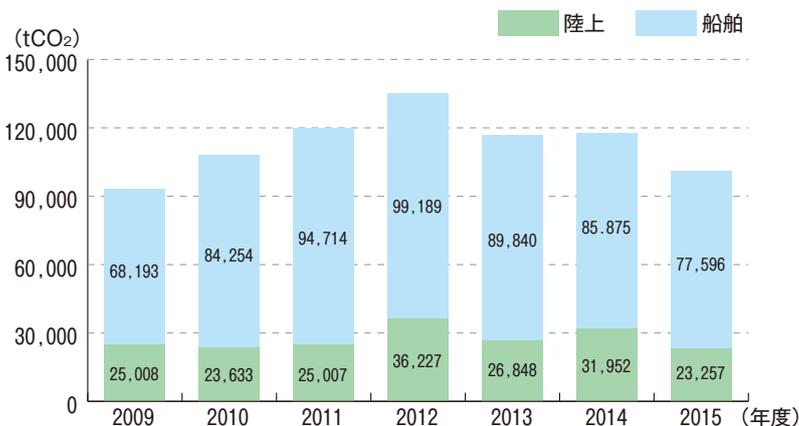
- JAMSTECの廃棄物排出量は、船舶からの廃棄物の排出量によって大きく変動するため、船舶の稼働率に依存します。
- 船舶からの2015年度の排出量は2014年度と比べて約39%減少していますが、これは海洋調査船「なつしま」及び海洋調査船「かいよう」の引退に伴う寄与と思われる。
- 陸上からの2015年度の排出量は2014年度と比べて約48%減少しています。これは2013、2014年度については組織改編による大掛かりな引越を行ったため、一時的に排出量が増えています。2015年度については前2年間に比べて引越しが少なかったため、2012年度以前の水準に戻ったためと推測されます。



※2014年度より船舶からの廃油については船舶における総量に含み集計をしています。

## CO<sub>2</sub>排出量

- JAMSTECのCO<sub>2</sub>排出は、ほぼエネルギーの消費に由来するものです。
- 2015年度のCO<sub>2</sub>排出量については2014年度と比べて、陸上で約27%、船舶で約10%、総量としては約14%いずれも減少しています。これは、電気使用量、燃料油使用量の項目でも記載したとおり、地球シミュレータの更新や海洋調査船「なつしま」及び海洋調査船「かいよう」が引退したことに伴いエネルギー消費が減少し、関連してCO<sub>2</sub>排出量についても減少したものと考えられます。



# 3. 各拠点の環境パフォーマンスと取組み

## 2015年度の環境改善・社会貢献活動事例

分類	実施内容	
節電	昼休憩時の消灯の励行 サーキュレーターや扇風機など併用して居室の温度を均一化するようにし冷房の設定温度を下げ過ぎないようにした。 エアコン吹き出し口の調整を適宜行い、冷暖房効率の向上に資した。 天気の良い日にはブラインドの角度調整を行い、蛍光灯の点灯を控えた。 現場レベルでは、不要な電気の消灯等を心掛けている 廊下側のブラインドを上げ、窓の光が廊下まで差し込むようにし、換気のため窓を開けて部屋の温度調整も行った。 業務の効率化を通して、 <b>残業時間削減</b> ドック工事における陸電使用量の削減(約2.5tCO <sub>2</sub> 削減) オンラインによる空調システムの24時間監視 平日昼間、休憩時間中の事務室・作業室の消灯実施 観測機材整備場誘導灯のLED式照明への更新 研究交流棟 外付け遮光カーテンの利用 グリーン購入法に適合した照明器具や空調機を積極的に採用した。 シミュレータ棟の空調環境や運転計画を見直し前年度比約35%の節電をした。 必要ない箇所の照明は点灯しないようにする。 デマンド制御による電力の削減	
	節水	トイレへの擬音装置導入による節水
	燃料油削減	「原動機負荷最適化運転の実施」 掘削操業、航海、停泊期間における電力デマンドに呼応した、原動機台数選択、負荷の最適化による燃費効率向上を目指した。 調査ポイント到着時間、入港時間等を勘案して速力の調整を行った。 洋上漂泊、錨泊等の燃料消費量削減を行った。 (安全を最優先とした、主機関・発電機関台数制御等による燃料消費量削減)
	廃棄物削減	長年使用されていなかった棚を活用した。 納品における梱包用段ボール等の削減を業者に指示した。 平成27年度の定期検査工事で左舷舵開放整備時に舵柱支持部等で使用されるグリスを環境配慮型潤滑油(EAL)であるダイナガードE(高性能・生分解性グリス)に変更した。 構内清掃業務の実施回数削減による効率化と、職員に向けたゴミ分別周知による環境問題への意識向上
	紙削減	紙と電気の消費量のモニタリング 会議等における資料の電子化(ペーパーレス) コピー用紙の両面印刷や再利用促進 打合せ資料を極力電子化させた。 モノクロ印刷や両面印刷、2アップ印刷を推奨し、コピー用紙等の節減に努める。

分類	実施内容
再資源	リサイクルへの取組み 再資源化可能な物はリサイクルに回す取組みを行った。 研究船と共同でゴミの分別の実施とリサイクルに取組んでいる。 廃油のほぼ100%をリサイクル。 エコキャップ回収。
省資源	平成27年度の定期検査工事で、船底部外板サンドブラストにより旧塗膜全面剥離し、 <b>低燃費型塗料にて塗装を施工</b> した(旧塗料と比較して実燃費で8~10%程度の燃料削減)。 納品における梱包用段ボール等の削減を業者に指示した。 回航時などに可能な限りの減速航走(12ノット航走)を実施した(フル航走時(15ノット航走)と比較して1日4~5tの燃料削減)。 ペイロード等の取り付けに使用する資材(タイトン・番線等)を、可能な限り再利用している。また、取付方法をボルト+ナットに変更するなどして、資材の使用量の削減に取組んでいる。
社会貢献	研究報告会「JAMSTEC2016」の開催(約400名参加) 地域の防災訓練で、増加傾向にある外国人へ救急救命の普及啓発活動に参加。 ①【放映・放送】H27.9.24放送 2015年上半年に番組「クレイジージャーニー」で放送された総集編の放送。 ②【取材・制作協力】H28.2.11配信 インターネットラジオ番組「バイリンガルニュース」にて、海洋科学分野・地球科学分野について。 大雨等の災害から身を守るための、基本的な気象の知識と対策について講演(横浜市南消防署) 「みなと防災フェスタ2015」にて <b>防災サイエンスショー(講演会)</b> 、ミニトークの講師(名古屋市港防災センター) インドネシア国内の複数の都市にて、 <b>雨に関する知見の記者会見</b> (ジャカルタ、ベンクル) <b>放射性物質の環境動態調査に関する廃炉支援者養成に貢献</b> (分析実習を福島大学の学生に対して実施) 各機関からの要望により <b>講師等として社員を派遣</b> した。また、会社周辺の清掃を定期的に行った。 津軽海峡東部 海洋レーダーデータサイトの公開(潮流データの公開に伴う付近を航行する船舶(漁船等)の燃費向上) <b>環境に関するイベントの実施</b> (沿岸観察会・講演会、研究成果・活動報告会(於:青森市)、むつ海洋・環境科学シンポジウム、海洋教室、むつ研×GODAC合同学習会)

### 横須賀本部



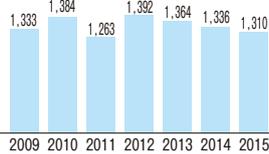
### 横浜研究所



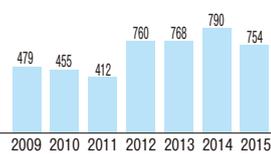
※横浜研究所で使用している紙は、横須賀本部で購入しているため、同じ量を計上しています。

### むつ研究所

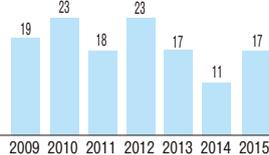
電気使用量(千kWh)



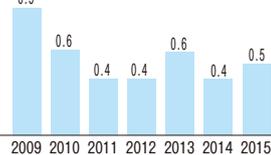
CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)



廃棄物排出量(t)

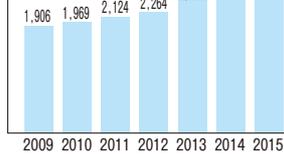


紙使用量(t)

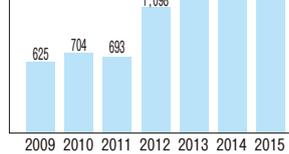


### 高知コア研究所

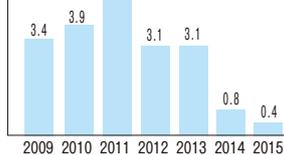
電気使用量(千kWh)



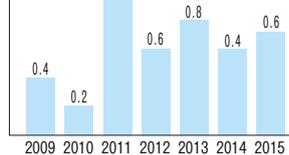
CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)



廃棄物排出量(t)



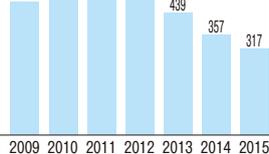
紙使用量(t)



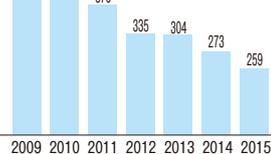
※高知コア研究所における廃棄物排出量は2014年度から集計方法を変更したため減少しています。

### 国際海洋環境情報センター(GODAC)

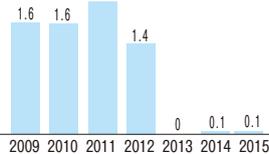
電気使用量(千kWh)



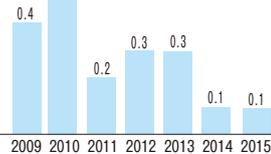
CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)



ガンリン使用料(k $\ell$ )



紙使用量(t)

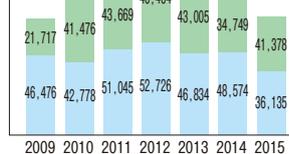


### 研究船

A重油使用量(千k $\ell$ )



CO<sub>2</sub>排出量(tCO<sub>2</sub>)

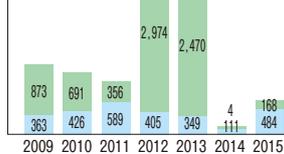


ちきゅう



みらい

廃棄物排出量(t)



紙使用量(t)



「ちきゅう」では、紙の削減活動を行っておりますが、データは取得できていないため、数値を記載しておりません。

2009年度以降のCO<sub>2</sub>排出量は2010年に改訂された温室効果ガス排出量の排出係数と、電気事業者別の排出係数により算出しているため、総エネルギー消費量が以前と比べて減少した場合でもCO<sub>2</sub>排出量が増加している場合があります。

## 4. 環境配慮活動の目標・実績・評価

2015年度の環境配慮活動の実績については以下のとおりです。いずれの項目についても削減することができました。2016年度につきましても引き続き省エネルギー、省資源、廃棄物排出量の削減、環境に配慮した契約など、種々の環境配慮活動を積極的に推進し、前年度よりも良い環境パフォーマンスとなるよう努めて参ります。

項目	実績 (2014年度比)	評価
電気	約25%減少	地球シミュレータ及び空調設備がJAMSTECの消費電力の大部分を占めています。電気使用量は地球シミュレータを更新したことにより大幅な削減を行うことができました。今後については、ほぼ2015年度の水準で推移するものと推測されますが、電気使用量については地球シミュレータの稼働率に大きく影響され、計算機能を利用する研究の内容並びに稼働実績も年ごとに変動するため、目標設定が難しいところではありますが、引き続き諸々の節電対策を実施し、削減に取り組めます。
ガス	約11%減少	JAMSTECでは都市ガスとLPGを使用しています。主な都市ガスの用途は地球シミュレータの空調であり、LPGについては、潜水訓練用プールの温水ヒーターや暖房、食堂での調理に使用しています。船上ではガスは使用されておりません。2015年度のガスの使用量は、2014年度に比べて約11%減少しており、ほぼ横ばい状態と言えますが、地球シミュレータ用の空調設備をガス式から電気式に更新したこと、潜水訓練プールや食堂の利用率が低下したことが影響したものと思われる。
水	約19%減少	2015年度の水の使用量は2014年度比で、陸上で約30%減少、船舶では約6%減少、全体で約19%減少しています。陸上での主な減少要因は、横浜研究所の地球シミュレータ用空冷設備更新により単体運転が可能となり、冷却水量の節約ができたことによります。船舶における推移はほぼ横ばい状態ですが、海洋調査船「なつしま」と海洋調査船「かいよう」の引退に伴う使用量の減少が寄与しているものと思われる。今後も節水活動、水資源の循環利用に積極的に取り組めます。
燃料油	約7%減少	JAMSTECの油類の使用量のほとんどが船舶の運航に係わるA重油です。このため、船舶の航海の形態（航走距離、速力、調査海域、稼働率など）により使用量は変動します。2015年度の使用量は2014年度と比べて約7%減少し、ほぼ横ばい状態ですが、海洋調査船「なつしま」と海洋調査船「かいよう」の引退に伴う使用量の減少が寄与しているものと思われる。今後についても、到着時刻や入港時刻の考慮、回航中の速力の減速など、燃料消費の削減に配慮した運航計画を策定するなど、出来る限りの燃料使用量削減に取り組めます。
廃棄物	約42%減少	廃棄物排出量は船舶からの廃棄物の排出量によって大きく変動するため、船舶の稼働率に依存します。2015年度の廃棄物排出量は2014年度と比べて総量で約42%減少しており、この減少の主な要因としては、海洋調査船「なつしま」及び海洋調査船「かいよう」の引退に伴う排出量の減少と、陸上においては組織改編による引越が、前年に比べて規模が小さくなったことにより、関連して排出量が減少したものと推測されます。今後も引き続きあらゆる業務において廃棄物が極力出ないような工夫を行うなど、排出量の削減に努めてまいります。
紙	約4%減少	法人文書や会議資料の電子化、両面コピーや裏紙の使用などを推進し、紙の使用量を抑える活動を行っています。主要な会議ではpdfファイルで資料を配布しパソコンで閲覧する方法を採用しており、紙による資料は配布しておりません。このような取組みにより、2015年度は2014年度に比べて約4%削減することができました。今回の削減量は僅かではありますが、今後も出来る限りペーパーレスに取り組み、削減に努めます。
温室効果ガス	約14%減少	JAMSTECのCO <sub>2</sub> 排出は、ほぼエネルギーの消費に由来するものです。2015年度のCO <sub>2</sub> 排出量については2014年度と比べて、陸上で約27%増加、船舶で約10%減少、総量としては約14%減少しています。これは、電気使用量、燃料油使用量の項目でも記載したとおり、地球シミュレータの更新や海洋調査船「なつしま」及び海洋調査船「かいよう」が引退したことに伴いエネルギー消費が減少し、関連してCO <sub>2</sub> 排出量についても減少したものと考えられます。

## 5. 環境に配慮した調達・契約

### (1) 環境に配慮した調達・契約の概要

JAMSTECではグリーン購入法及び環境配慮契約法の規定に則り、グリーン購入を推進するための方針（環境物品等の調達の推進を図るための方針：調達方針）を作成し環境物品の調達を行うとともに、国が定める環境配慮契約の基本方針に従い環境配慮契約を推進する体制を整備しています。なお、グリーン購入に係る方針、調達率、実績及び環境配慮契約に係る実績については、ホームページ上に公開しています。

【[http://www.jamstec.go.jp/j/about/procurement/kankyo\\_hairyō.html](http://www.jamstec.go.jp/j/about/procurement/kankyo_hairyō.html)】

### (2) 調達方針

JAMSTECでは平成27年度の調達方針を以下のように定めています。

### (3) グリーン購入の実績

平成27年度の調達方針に定めた各品目の目標調達率を達成したものは66品目（平成26年度44品目）、達成できなかったものは5品目（同6品目）でした。

研究現場で使用する調達品目についてはグリーン購入法非適合品もありますが、環境配慮に関する各法の順守を前提として環境負荷の低減に配慮し、特に文具等消耗品について調達率向上を図るなど、役職員が意識して一層の改善に努めてまいりたいと考えております。

## 平成28年度 調達方針

### I. 特定調達物品等の平成27年度における調達の目標

平成28年度における個別の特定調達物品等（環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成28年2月2日変更閣議決定。以下「基本方針」という。）に定める特定調達品目毎に判断の基準を満たすもの。）の調達目標は、全ての調達項目について100%（公共工事、役務に関しては詳細な事項がありますので、上記URLをご参照ください。）とします。なお、基本方針に規定された判断の基準は、あくまでも調達の推進に当たっての一つの目安を示すものであり、できる限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めることとします。

### II. 特定調達物品等以外の平成28年度に調達を推進する環境物品等及びその調達の目標

物品の選択に当たっては、エコマークの認定を受けている製品またはこれと同等のものを調達するよう努めます。画像機器等、電子計算機等、オフィス機器等、家電製品については、より消費電力が小さく、かつ再生材料を多く使用しているものを選択します。

### III. その他環境物品等の調達の推進に関する事項

1. 環境物品等の調達を推進するため、「環境物品等の調達推進体制」を定め、推進体制を整備します。
2. 本方針は海洋研究開発機構全ての部署を対象とします。
3. 機器類等については、できる限り修理等を行い、長期間の使用に努めます。
4. 調達する品目に応じて、エコマークやエコリーフなどの第三者機関による環境ラベルの情報を十分に活用するなど基本方針に定める判断の基準を満たすことにとどまらず、できる限り環境負荷の少ない物品の調達に努めます。
5. 物品等を納入する事業者、役務の提供事業者、公共工事の請負事業者等に対して事業者自身が本調達方針に準じたグリーン購入を推進するよう働きかけるとともに、物品の納入に際しては、原則として本調達方針で定められた自動車を利用するよう働きかけます。
6. 事業者の選定に当たっては、ISO14001又は環境活動評価プログラム等により環境管理を行なっている者又は環境報告書を作成している者を優先して考慮するものとします。
7. 調達を行う地域の地方公共団体の環境政策及び調達方針と連帯を図りつつグリーン購入を推進します。
8. 本方針に基づく調達担当窓口は経理部契約第1課とします。

## 主な特定調達品目の調達状況

調達項目		調達率	調達項目		調達率
1	紙類	100%	11	消火器	—%
2	文具類	95%	12	制服・作業服	—%
3	オフィス家具等	94%	13	インテリア・寝装寝具	—%
4	OA機器	100%	14	作業手袋	—%
5	携帯電話	—%	15	その他繊維製品	—%
6	家電製品	—%	16	設備	—%
7	エアコンディショナー等	—%	17	防災備蓄用品	100%
8	温水器等	—%	18	公共工事	100%
9	照明	100%	19	役務	—%
10	自動車等（一般公用車）	—%			

・ 調達目標は、全ての項目について100% ・ 「—」は調達実績なし

・ 紙類は重量ベースの比率

## (4) 調達に関連したその他の取組み

### ① 特定調達物品等以外の環境物品等の調達状況

特定調達物品以外の環境物品等については、3R（reduce・reuse・recycle）の推進を図り、エコマークの認定を受けたもの、又は同等品のものを選択し消費電力が小さく、かつ再生材料などを使用したものを選択するよう努めました。

### ② その他環境物品等の調達推進に関する事項について

平成27年度の調達方針に表記した事項の他、契約業者等にグリーン購入の推進を呼びかけ、また、機構内では両面コピー・使用済み裏紙コピーの活用、分別ごみ回収の促進に努めました。

## (5) 温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績

国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律（以下「環境配慮契約法」という。）に基づき、平成27年度における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績は以下のとおりです。

### ① 平成27年度の取組み

環境配慮契約法及び国及び独立行政法人等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する基本方針（平成22年2月5日閣議決定。以下「環境配慮契約基本方針」という。）に基づき、可能なものについて温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約（以下「環境配慮契約」という。）を締結しました。

### ② 環境配慮契約の締結状況

環境配慮契約基本方針で環境配慮契約の具体的な方法が定められている i 電気の供給、ii 自動車の購入及び賃貸借、iii 船舶の調達、iv 省エネルギー改修事業（ESCO事業）、v 建築物の建築又は大規模な改修に係る設計業務、vi 産業廃棄物処理のうち、JAMSTECの3拠点において使用する電気の調達に関して、下表のとおり環境配慮契約を締結しました。

## 電力の供給を受ける契約

### 【横須賀本部】

契約期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日
契約電力	1600kW
予定使用電力量	6,554,000kWh
契約方式	事業者の環境配慮の取組み状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式） <small>(注1)</small>
入札申込者	1者
落札者	(株)F-Power

### 【むつ研究所】

契約期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日
契約電力	動力需要：87kW 電灯動力併用需要：270kW
予定使用電力量	動力需要：217,000kWh 電灯動力併用需要：1,229,000kWh
契約方式	事業者の環境配慮の取組み状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式） <small>(注1)</small>
入札申込者	1者
落札者	東北電力(株)

### 【高知コア研究所】

契約期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日
契約電力	700kW
予定使用電力量	2,828,000kWh
契約方式	事業者の環境配慮の取組み状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式） <small>(注1)</small>
入札申込者	1者
落札者	四国電力(株)

また、産業廃棄物処理に係る契約では、横須賀本部及び横浜研究所（2拠点）において事業者の環境配慮の取組み状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）(注2)を実施しました。

なお、自動車の購入及び賃貸借、船舶の調達、省エネルギー改修事業（ESCO事業）、建築物の建築又は大規模な改修に係る設計業務については環境配慮契約により調達した案件がありませんでした。

(注1) 当該入札の申込者のうち、二酸化炭素排出係数、未利用エネルギー活用状況、新エネルギー導入状況及びグリーン電力証書の調達者への譲渡予定量に係る数値をそれぞれ点数化し、その合計が基準以上である者の中から、最低の価格をもって申込みをした者を落札者とするもの。

(注2) 当該入札の申込者のうち、環境配慮への取組み状況及び優良基準への適合状況をそれぞれ点数化し、その合計が基準以上である者の中から、最低の価格をもって申込みをした者を落札者とするもの。

## 6. いろいろな環境配慮活動

### (1) 省エネルギーの取組み

#### <夏季の省エネルギー対策>

JAMSTECでは、夏季（5月1日～10月31日まで）の省エネルギー対策として次のような取組みを行っています。

#### ●適正な室温管理

冷房時の空調設定温度目安をおおむね28℃とする。

#### ●軽装の励行

通常業務及び会議において上着、ネクタイの省略を励



正門（横須賀本部）におけるクールビズの掲示

行する。またその旨を受付等に掲示し、来訪者にも周知する。

#### ●オフピーク使用

使用電力の大きい機器の使用にあたっては、極力、電力消費ピーク時間帯（13:00～16:00）外にする。

## <通年で行っている省エネルギー対策>

### ● 照明の消灯

業務上特に必要な場合を除き、昼休み、夜間は消灯する。

廊下、エントランスホール等は、安全上支障のない範囲で消灯する。

### ● OA機器の管理

昼休みを含め、業務上支障のないパソコン、プリンター及びコピー機等の電源をこまめに切る。

### ● 会議資料

特に必要な場合以外は両面コピーとし、報告書等は概要資料とする。また、定例の主要な会議についてはペーパーレス化を推進する。

以上のほか、各拠点で実施されている環境配慮の取組みについては、3. 各拠点の環境パフォーマンスと取組みをご覧ください。



照明の間引き

## (2) 環境を考える日

横須賀本部では毎週水曜日を「環境を考える日」と定め、職員に室内の消灯などを呼びかけています。

『毎週水曜日は環境を考える日です。昼休みには室内の照明を消灯するなど省エネルギーと環境に配慮した生活を心がけましょう』

## (3) エコキャップの収集



収集したエコキャップ

収集したエコキャップ

JAMSTECでは2009年度から横須賀本部、横浜研究所、むつ研究所、国際海洋環境情報センターで収集を開始し、平成28年3月31日までに累計で39万3,547個のペットボトルのキャップを回収し、NPO法人エコキャップ推進協会に送付しました。

## (4) ビーチクリーン

JAMSTECは海に関する研究や開発を行っている研究所です。そこで、日頃お世話になっている「海」に対し感謝するため、公益財団法人かながわ海岸美化財団の支援を



ビーチクリーン (2016. 1.16)

得てビーチクリーン（海岸清掃）を定期的に行っています。これまでに行ったビーチクリーンの実績は次の表のとおりです。これからも、微力ながらも海岸の美化に貢献していきたいと考えています。

実施日	実施場所	参加者数
2016. 6. 11	逗子海岸（神奈川県逗子市）	21名
2016. 1. 16	由比ガ浜（神奈川県鎌倉市）	23名
2015. 6. 13	材木座海岸（神奈川県鎌倉市）	32名
2014. 11. 30	材木座海岸（神奈川県鎌倉市）	25名
2013. 12. 7	七里ガ浜（神奈川県鎌倉市）	19名
2013. 6. 1	由比ガ浜（神奈川県鎌倉市）	22名

## (5) 循環使用・再利用

横須賀本部から排出される生活排水は浄化槽で処理を行った後、海域へ放流していますが、夏場の雨が少ない時期などはこの処理水を緑地管理に使用し水資源の節制に努めています。使用量は1日当たり5～10m<sup>3</sup>です。

## (6) グリーンカーテン

横浜研究所のフロンティア研究棟では、2012年からヘチマ、ゴーヤ、アサガオでグリーンカーテンを制作し、夏季の建物の温度上昇を防ぐ試みを行っています。制作を始め



南側壁面で生育中のグリーンカーテン

た2012年当初は植物の育ち具合も期待したとおりにはいかずカーテンのでき具合も今一つでしたが、年々コツをつかみ、今夏も立派なカーテンができました。